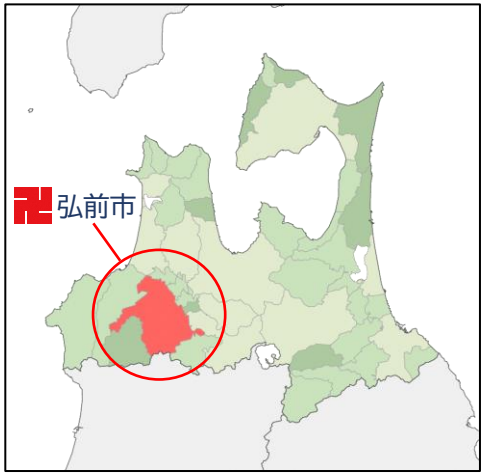
ひろさき援農プロジェクト

企業版ふるさと納税に係る大臣表彰
事例紹介

あおもり　ひろさき
青森県弘前市

弘前市とは



- 人口約16万人の県内3番目の都市
- 明治22年4月、全国30市とともに市制を施行
- 弘前城、神社仏閣、洋風建築物、前川國男の建物など歴史的建造物にあふれる文化都市
- 県内唯一の国立大学法人弘前大学などがある学園都市
- 四大まつりを中心とした観光都市

さくらまつり

ねぷたまつり

菊と紅葉まつり

雪燈籠まつり

弘前のりんご産業

弘前市は日本一のりんご産地

農業産出額（果実部門：449億円）が全国の市町村中 **第1位**（※1）

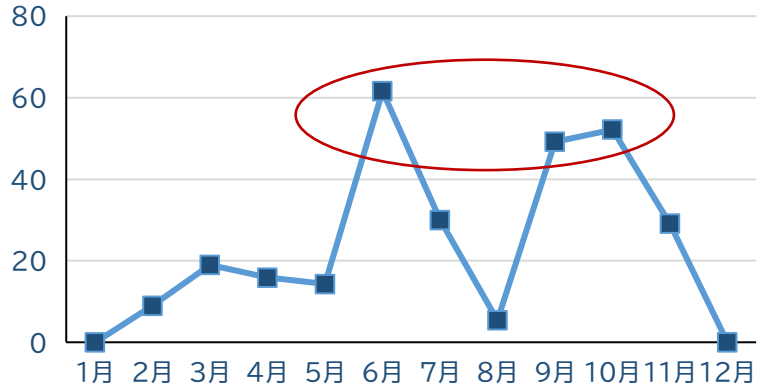
➡ りんご収穫量は全国の約25%、青森県の約40%（※2）

日本のりんご**4個のうち1個は弘前産りんご**

※1 「農林水産省:令和4年市町村別農業産出額（推計）」より
※2 「農林水産省:令和4年産果樹生産出荷統計」及び「青森県りんご果樹課調べ」より

りんご産業の課題

りんご（品種：ふじ）の月別労働時間



労働ピークが
短期間に集中

- 農閑期はりんご農業者の家族で労働力を確保
- 農繁期は知人等をアルバイト雇用しているが、人手の確保に苦慮

令和5年度 ひろさき援農プロジェクト発足

令和2年度
令和4年度
令和5年度

NIKKA
ニッカウヰスキー(株)

弘前工場
援農ボランティア開始

Point !
官民共創の取組方針を協議
(現地訪問、数十回に渡る打合せ)

企業版ふるさと納税
(計1,000万円)

ニッカシードル
リニューアル

Asahi
アサヒビール(株)

アサヒグループ企業
援農ボランティア開始

弘前市

ひろさき援農プロジェクト
発足

(株)JTBが企画・運営

援農ボランティア
ツアー化

JTB
感動のそばに、いつも。

令和5年度 ひろさき援農プロジェクト概要

感動のそばに、いつも。

■課題
・りんご産業における人手不足解消
・弘前りんごのブランド価値向上
・農業と観光の連携による関係人口の増加

■役割
・援農ボランティアツアーのオペレーション
（ボランティア参加者の送迎、昼食手配）
・旅行業のプロとしての知見、アドバイス

ひろさき
援農プロジェクト

■課題
・「本業で取り組む「サステナビリティ経営」」に
沿った活動として、地域貢献を推進したい
・ニッカシードルをリブランディングしたい

■課題
・地域との絆を深めたい
・りんご産業をもっと活性化したい
・弘前シードルの認知度を向上させたい

令和5年度　援農ボランティアツアー（内容）

■行程

- 08:00 弘前駅集合
- ▼
- 09:00 収穫作業
- ▼
- 12:00 昼食
- ▼
- 13:00 収穫作業
- ▼
- 15:30 解散

■特徴

ハイヤー手配

行程の移動は全てハイヤー対応

備品・ノベルティの用意

雨合羽・長靴・手袋・タオル・シードル　etc

宿泊補助

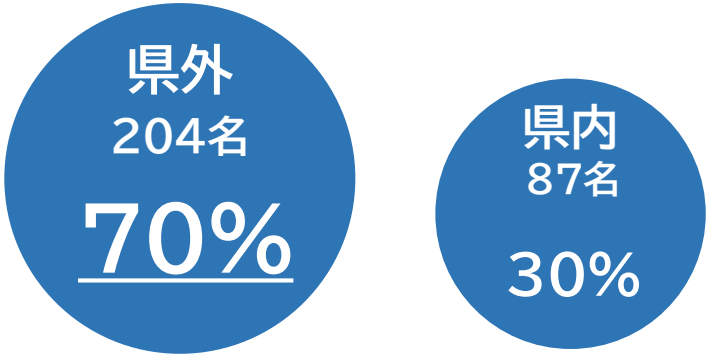
1泊/3,000円（お1人様2泊まで適用）

令和5年度　援農ボランティアツアー（実績）

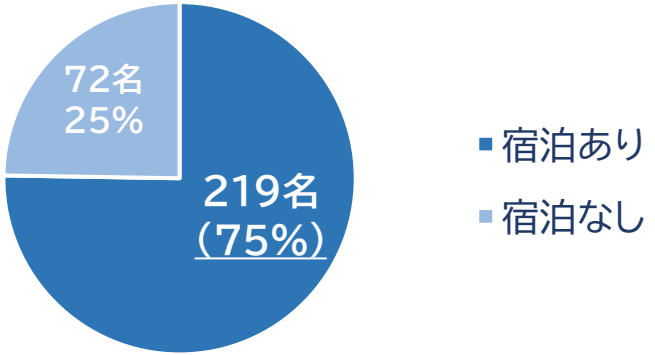
■実績

開催時期	10月～11月のうち5日間 （10/15、10/22、10/29、11/4、11/12）
主な作業	りんご収穫
作業時間	9:00～15:30
受入農家	29名
参加者	**282名**

■参加者（居住地別）



■参加者（宿泊者数）



令和５年度　援農ボランティアツアー（関係者の声）

■受入農家からの声

・りんごのことを知ってもらえて良かった。
・他県、他産業の人と関わることでいい刺激になった。
・弘前りんごをPRできる良い事業だと思う。
・援農ボランティアを継続してほしい。
・悪天候でも頑張ってくれて嬉しかった。

■参加者からの声

・農園の皆さんが親切で楽しく作業できた。
・ご縁を大事にしたい。
・ツアーをきっかけに初めて弘前を訪れ、観光も楽しめた。
・また参加したい、事業を継続してほしい。
・この作業を毎日やるのは大変だと思った。

ひろさき縁農サポーター認定制度

援農活動に取り組む企業等をサポーター認定

➡農業を起点に**企業等との持続的な関係（縁）**を構築

HIROSAKI AGRI SUPPORT SINCE 2023

認定証授与式の様子

第1号　ニッカウヰスキー（株）

第2号　アサヒビール（株）

関係企業の思い

ニッカウヰスキー(株)

りんごの風味を生かした弊社のシードルには地域のりんごが不可欠。りんご農家さんの抱える幾つもの課題を少しでも支援したいとの想いが共創を通じて今回の援農に繋がりました。お手伝いを通じて社員のりんご産業への理解や製品への想いも深くなりました。

今年はシードル事業の創業から70年目。地域に根差す企業として次の70年それ以降も、りんごを原料とした製品を弘前の地で作り続けたいと考えております。

アサヒビール(株)

ニッカ弘前生シードルのリブランディングにあたり、持続可能な事業の実現をしていくためには、根幹であるりんご産業の発展、支援が欠かせないと考え、工場のある弘前市を地域貢献の地に選びました。弘前市の皆さんと何が出来るのかと考え抜いた末に辿り着いたのが、りんご農家さんの支援をする「援農ボランティア」であり、社員自らも参加することで、一体感も生まれ、関係者全員が想いを持ったプロジェクトになりました。

今後も継続した取組みをしていくことで、日本のりんご産業、シードル産業に貢献し、ブランド自体も輝き続けていきたいです。

弘前市

アサヒビール様、ニッカウヰスキー様が、70年続けてくださったシードルづくりからこのような新たな連携が生まれた。皆様に心より感謝を。

ぜひ今後も持続的な官民共創により、さらなるりんご・シードル産業の活性化に取り組んでいきたい。

最後に

大事なことは、一歩踏み出すこと。

そして、継続させること。

ご静聴ありがとうございました